



十津川村立十津川中学校 学校だより 5月

令和5年5月30日
文責 前木伸一

修学旅行 ～ 4年ぶりに北海道・新十津川町へ～

3年生15名が5/16(火)～19(金)の日程で北海道・新十津川町へ修学旅行に行きました。好天に恵まれた南富良野・空知川ラフティング。車窓から見える雄大な景色に歓声をあげながらのバス移動。綺麗な茶色に整地された広大な畑を見て、生徒たちは「砂漠！砂漠！」と大喜びしていました。

今回の中心行事は3日目の新十津川中学校との交流会です。3年生には「この3年間、交流ができなかった先輩方の分もしっかり交流してほしい。」と伝えました。内容は学校紹介、自己紹介、校歌交流、レクレーション、そして給食も頂きました。両校生徒が明るく積極的に交流し、あっという間に仲良くなるその姿に両校教職員も目を細めて様子を見守りました。

今回の修学旅行に際し、歓迎いただきました新十津川町の皆さまを始め、お世話頂きました方々に心からお礼を申し上げます。生徒たちにはこの経験を活かし、両町村の絆を継承する担い手に成長してほしいと思います。



新十津川中生との
記念写真



新十津川町の
田園風景を背景に



先人が到着した
小樽にて

栽培学習 ～ 育てる楽しさと、食べる喜び～

2年生が5/8(月)に作業を始めたミニトマトが、黄色い花を咲かせ小さな実をつけ始めました。今後もしっかり世話をし、たくさん収穫し、美味しく食べてください。

さて、最近私が感じていることに、「食事」や「農業」の大切さがあります。「食事」は人間にとって最も大切なことのひとつです。自給自足はなかなか難しいですが、できる範囲で穀物や野菜などを自分で栽培することは、大切なことだと思います。農作業は手間や労力が必要ですが、その分、収穫・食事の時は格別であり、健康にも良いはずです。また、その経験があると、購入した農作物等も一層感謝していただくことができます。



十津川村は個人や家族で栽培を楽しむには適した地域だと思います。ぜひ中学校の栽培学習を家庭生活に繋げてもらえればと思います。

本の紹介 ～ 新十津川物語～

「新十津川物語」は五條市出身の川村たかしさんが約10年をかけて著された、村役場前にある銅像津田フキさんが主人公の全10巻からなる児童小説です。

「北へ行く旅人たち」はその第1巻で、明治22年8月、十津川村が大豪雨にみまわれ、両親を失った9歳の津田フキさんが、お兄さんと共に北海道にむかう様子などが書かれています。

3年生には「修学旅行の復習」として、1・2年生には「修学旅行の予習」として、是非「北へ行く旅人たち」を、できれば「新十津川物語」全巻を読んでもらいたいと思います。



～保護者の皆様～

5月8日より、新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行されました。修学旅行や給食等、学校生活の色々な場面で従来の活動が再開され始めています。保護者の皆さまには様々な面で感染症対策にご協力頂きました事、改めてお礼を申し上げます。今後は、感染症以前の活動の長所に、この3年間工夫しながら学びを継続してきた長所を取り入れ、生徒の成長によりよい教育を模索・検討しながら進めていきたいと思っております。今後とも本校の教育活動にご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。